

M43a 東アジアにおけるキャリントンイベント記録の再検討

早川尚志（京都大学），岩橋清美（国文学研究資料館），玉澤春史，河村聡人（京都大学），片岡龍峰（極地研究所），宮原ひろ子（武蔵野美術大学），海老原祐輔，磯部洋明，柴田一成（京都大学）

1859年9月1日にキャリントンが観測した太陽フレア，およびそれが原因で発生した巨大磁気嵐は，極端宇宙天気研究における一つの基準となっており，様々な先行研究がある．世界各地のオーロラ観測記録から磁気嵐の規模を推定した Green and Boardsen (2006) では，東アジア地区の観測を一例あげ，天候不順により記録がないものとしている．日本及び中国，韓国の当時の文献を調査したところ，当時の日本の天候はそれほど悪くなく，実際に国内文献から新たに観測事例も見つかった．磁気緯度に換算すると23度であり，世界各地でオーロラが観測された最大ピークの数時間後にあった小ピークを反映しているものと考えられる．本講演では既知の記録の再検討も含めて報告する．